

授業科目 (科目ID)	理学療法研究法Ⅱ 23p212		担当教員  (実務経験)	横野 裕行  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法において研究とは、臨床で起こる様々な問題を解決するためのプロセスである。</li> <li>・本科目では研究の意義を理解すること、統計処理について理解すること。</li> </ul>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の意義を理解し、自ら疑問を解決しようと行動できる</li> <li>・統計の考え方を理解できること</li> </ul>					
テキスト・参考図書等	なし					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験にて評定する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	自ら能動的に調べる、考えることが必要な授業です。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション・研究方法①	理学療法士が研究する必要性・方法を知る			
	2	研究方法②	理学療法士が研究する必要性・方法を知る			
	3	研究方法③	信頼性・妥当性、研究デザインについて理解する			
	4	統計学①	母集団・標本・統計学的推論、尺度について理解する			
	5	統計学②	分散ばり、標準偏差について理解する			
	6	統計学③	正規分布、パラメトリック・ノンパラメトリックについて理解する			
	7	統計学④	対応がある・対応がないとは何か、差がある・関係があるとは何か理解する			
	8	統計学⑤	感度・特異度、陰性・陽性適中率、偽陽性・偽陰性について理解する			
	9	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる			
	10	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる			
	11	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる			
	12	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる			
	13	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる			
	14	研究計画を立てよう	自身が知りたいことを考え・まとめる			
15	研究計画を立てよう～発表～	研究計画を発表する				

2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学校

理学療法学科

授業科目 (科目ID)	理学療法評価法Ⅱ  23p213	担当教員  (実務経験)	浜本 浩一  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	1. 解剖学・運動学で学習した内容と評価の意義・方法を関連付けて考えることができる。 2. 患者さんに検査実施にあたり、必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 3. 1つの検査結果において異常や制限の原因を明らかにできる(検査から考えられる問題)。 4. 複数の検査項目から考えられる問題点を説明・記述できる(統合と解釈)。				
到達目標	各種検査法を理解し、統合と解釈ができる。				
テキスト・参考図書等	シンプル理学療法学シリーズ'理学療法評価学テキスト 第2版 理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10版[DVD付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	・定期試験(筆記:中間・前期・後期3回の合算の60%以上で合格)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。授業は触診を行いやすく、動きやすい服装を用意すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	1年次内容の復習	形態計測、ROM-T「上肢」「下肢」		
	2	1年次内容の復習	形態計測、ROM-T「上肢」「下肢」		
	3	評価の意義	end feel、抵抗等尺運動の意義、筋力テストについて学ぶ		
	4	評価の意義	end feel、抵抗等尺運動の意義、筋力テストについて学ぶ		
	5	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ		
	6	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ		
	7	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ		
	8	徒手筋力テスト	徒手筋力テストについて学ぶ		
	9	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ		
	10	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストの意義とその方法について学ぶ		
	11	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ		
	12	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚・疼痛の検査法について学ぶ		
	13	深部腱反射テスト	深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ		
	14	深部腱反射テスト	深部腱反射・病的反射の検査法について学ぶ		
15	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ
	17	バランス検査	バランス検査法について学ぶ
	18	バランス検査	バランス検査法について学ぶ
	19	協調性検査	失調について学ぶ
	20	協調性検査	失調について学ぶ
	21	片麻痺の運動機能	Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ
	22	片麻痺の運動機能	Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ
	23	脳神経・高次脳機能検査、呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
	24	脳神経・高次脳機能検査、呼吸機能	脳神経・高次機能について学ぶ、呼吸機能について学ぶ
	25	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
	26	統合・解釈①	学んだ検査方法から得られる結果をもとに統合・解釈し、患者像をつかむことについて学ぶ
	27	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
	28	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う
29	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う	
30	統合・解釈②	実際の症例の統合解釈とレポート作成を行う	



授業科目 (科目ID)	理学療法評価法実習  23p214		担当教員  (実務経験)	浜本 浩一  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	1. 患者さんに、検査実施にあたり必要な説明と禁忌動作や注意点等のリスク管理ができる。 2. 各検査が患者さんにかかる負荷を理解するとともに、患者さんの疲労に配慮することができる。 3. 各検査手技を的確に実施できる。 4. 検査や動作分析の結果を説明・記述ができる。				
到達目標	各種検査法および評価法を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト 第2版 理学療法評価学 第6版補訂版 新・徒手筋力検査法 原著第10[DVD付] 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	・定期試験(実技:2回の合算の平均6割以上で合格)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物(チェックテスト)	必須			
	その他	%			
履修上の 留意事項	・解剖・生理・運動学の復習をして授業に臨むこと。・授業は触診を行いやすく、動きやすい服装を用意すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	徒手筋力テスト	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ		
	2	徒手筋力テスト	筋力を測定する方法の中の徒手筋力テストについて学ぶ		
	3	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストについて学ぶ		
	4	整形外科特殊テスト	整形外科特殊テストについて学ぶ		
	5	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚の検査法について学ぶ		
	6	感覚検査・疼痛検査	表在・深部・複合感覚の検査法について学ぶ		
	7	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ		
	8	筋緊張テスト	筋緊張の検査法について学ぶ		
	9	バランス検査	バランス検査法について学ぶ		
	10	バランス検査	バランス検査法について学ぶ		
	11	協調性検査	協調性検査法について学ぶ		
	12	協調性検査	協調性検査法について学ぶ		
	13	片麻痺機能検査	Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ		
	14	片麻痺機能検査	Brunnstrom Stage・片麻痺機能検査について学ぶ		
15	脳神経検査	脳神経検査法について学ぶ			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	高次脳機能検査	高次脳機能検査法について学ぶ
	17	高次脳機能検査	高次脳機能検査法について学ぶ
	18	運動失調検査	運動失調の検査法について学ぶ
	19	運動失調検査	運動失調の検査法について学ぶ
	20	呼吸機能検査	呼吸機能の検査法について学ぶ
	21	呼吸機能検査	呼吸機能の検査法について学ぶ
	22	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ
	23	姿勢・動作分析	姿勢・動作の診かたを学ぶ



04-1	運動療法 23p215	担当教員 (実務経験)	江戸 香苗 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	運動療法とは理学療法の中でも根幹をなすものである。この授業では運動療法の基本的な原則・方法論について学び、個々の症状に対する治療プログラム実施に役立てていく。				
到達目標	①運動療法の概要と背景、原則、方法論等について説明できる。 ②運動の効果と弊害について、科学的根拠にもとづいて説明できる。 ③実際の患者に対して運動療法中心の治療プログラムを立案できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	運動療法の治療効果の背景として解剖学、生理学、運動学の知識が不可欠である。運動療法の履修と並行してさらに知識を深めること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、運動療法の概念	運動療法の概念、この科目を学ぶ目的を理解する。		
	2	運動療法の歴史、リスク管理	運動療法の発展してきた歴史とその概念、運動療法実施時のリスク管理について学習する		
	3	基本的運動	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮様式による内容から理解する		
	4	関節可動域運動、伸張運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について学習する		
	5	関節可動域運動、伸張運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について学習する		
	6	関節可動域運動、伸張運動	正常の関節の特性と、関節可動域制限の病理、関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について学習する		
	7	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
	8	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
	9	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
	10	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
	11	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
	12	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
	13	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
	14	筋力増強運動	筋収縮の生理学的機序、筋力低下と筋力増強のメカニズム、筋力増強の目的と方法について学習する		
15	持久力増強運動	筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	持久力増強運動	筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する
	17	持久力増強運動	筋持久力、全身持久力、持久力増強運動の目的、方法について学習する
	18	運動制御と運動学習理論に基づく運動療法	運動制御と運動学習の理論を理解し、理論に基づき練習の構成について学習する
	19	協調性運動障害に対する運動療法	運動の協調性を保つための機序、協調性運動の目的と方法について学習する
	20	バランス障害に対する運動療法	バランス障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
	21	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害の分類、運動療法の理論と方法について学習する
	22	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について学習する
	23	感覚障害・筋緊張異常に対する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学習する
	24	感覚障害・筋緊張異常に対する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法の理論と方法を学習する
	25	痛みに対する運動療法	痛みの定義・原因、痛みに対する運動療法について学習する
	26	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する
	27	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する
	28	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する
29	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する	
30	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムの組み立て方について学習する	



授業科目 (科目ID)	運動療法実習  23p216		担当教員  (実務経験)	江戸 香苗  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務		
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	この授業では運動療法で学習した内容について実習を通して学び、理解を深めていく。					
到達目標	①運動療法の原則、目的、方法論等について説明できる。 ②各運動療法の基本的な手技を身につけ、対象者に実施できる。 ③実際の患者に対して立案した治療プログラムを計画に沿って実施でき修正ができる。					
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第4版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	実技試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	学内授業では健常者に対する手技の実施が主となるが、運動療法は理学療法士が行なう根幹となる治療手技である。まずは健常者に対して正確にかつ安全に実施できるよう、十分に練習すること。授業は実技に適した服装で受講すること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	基本的運動、リスク管理	身体運動の基本的種類について、運動を発現する力と筋収縮様式による内容を体験する。運動療法実施時のリスク管理について実習する。			
	2	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。			
	3	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。			
	4	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。			
	5	関節可動域運動、伸張運動	関節可動域を維持／拡大するための関節可動域運動、伸張運動の目的、方法について実習する。			
	6	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。			
	7	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。			
	8	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。			
	9	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。			
	10	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。			
	11	筋力増強運動	筋力増強運動の目的と方法について実習する。			
	12	持久力増強運動	持久力増強運動の目的と方法について実習する。			
	13	持久力増強運動	持久力増強運動の目的と方法について実習する。			
	14	持久力増強運動	持久力増強運動の目的と方法について実習する。			
15	運動制御と運動学習理論に基づく運動療法	運動学習理論に基づく運動療法について実習する。				

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。
	17	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。
	18	姿勢障害に対する運動療法	姿勢障害に対する運動療法を実習する。
	19	発達と運動療法	発達とその障害、発達を促す運動療法について実習する。
	20	感覚障害・筋緊張異常に対する運動療法	感覚障害、筋緊張異常に対する運動療法を実習する。
	21	痛みに対する運動療法	痛みに対する運動療法について実習する。
	22	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。
	23	運動療法の組み立て	整形外科疾患、中枢神経疾患等に対する運動療法プログラムを実際に組み立て、実施する。



授業科目 (科目ID)	物理療法  23p217		担当教員  (実務経験)	吉田 智子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科で理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	各種物理療法について、原理・生理学的作用・効果の機序について理解する					
到達目標	物理療法の種類・原理・目的・効果と適応・手段・リスク管理などを、理由も含め説明・記述出来る事。 物理療法手段を用いた研究を計画し、結果に対してわかりやすい説明・発表が出来る事。					
テキスト・ 参考図書等	最新理学療法学講座 物理療法学 (医歯薬出版株式会社)					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	90%	定期試験90%、実験についての発表内容10%を評価し、最終成績は総合点にて評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	10%				
履修上の 留意事項	講義と実際の物理療法機器を使用した実習を組み合わせるため、欠席しないように心がけること。またグループワークでは研究報告書をまとめる力も必要となるので、日頃から論文などに目を通すように心がけること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	理学療法における物理療法の役割・位置づけ、物理療法の対象となる病態の整理			
	2	オリエンテーション	理学療法における物理療法の役割・位置づけ、物理療法の対象となる病態の整理			
	3	温熱療法	温熱療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について			
	4	各論:ホットパック	ホットパック原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について			
	5	各論:パラフィン浴	パラフィン浴の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について			
	6	寒冷療法	氷を使った寒冷療法、寒冷浴			
	7	寒冷療法	氷を使った寒冷療法、寒冷浴			
	8	電磁波療法	電磁波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について			
	9	電磁波療法	電磁波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について			
	10	超音波療法	超音波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について			
	11	超音波療法	超音波療法の原理、目的、生理学的効果と適応・禁忌、作用機序、リスク管理について			
	12	グループワーク	グループごとの研究計画・実施			
	13	グループワーク	グループごとの研究計画・実施			
	14	グループワーク	グループごとの研究計画・実施			
15	グループ発表					



授業科目 (科目ID)	日常生活活動実習  23p218	担当教員  (実務経験)	竹中 謙将  道内の病院で10年、老人保健施設で7年、理学療法士として勤務 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	実習	授業回数(1回90分)	23	時間数	45時間
授業目的	授業を通して、障がい像を明確に捉え、その人にあった日常生活活動方法を考える。さらに安全に介助・訓練方法を実践する。また、様々なADL評価法を学び、演習する。				
到達目標	①日常生活活動を安全で円滑に行う方法を実施できる。 ②障がいを持つ人の日常生活活動方法を説明できる。 ③ADL評価とその方法、定義について説明と実施ができる。				
テキスト・参考図書等	PT・OTビジュアルテキスト ADL 姿勢と動作 第3版 ADLその基礎から応用				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	前期は筆記試験80点と実技試験20点の合計で評価を行い、本試験で60点に満たないものは再試験にて筆記試験100点満点中60点以上を合格とする。 後期試験は筆記試験100点満点で評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	この講義は暗記力だけでなく、応用力、想像力が重要になります。普段の生活でどのような活動、動作がなされているか、また身体機能や環境の変化によってどう影響するのか常に意識するよう心がけること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション			
	2	動作練習の基本	ADL訓練、基本動作訓練を進める上で必要な運動を活用し効果的な練習・指導方法について学ぶ		
	3	ポジショニング	ポジショニング(良肢位)についてその方法を学ぶ		
	4	ADL評価法	ADL評価法について学ぶ		
	5	ADL評価法	ADL評価法について学ぶ		
	6	動作の分析	基本動作を分析する		
	7	動作の分析	基本動作を分析する		
	8	関節リウマチのADL	関節リウマチのADLについて学ぶ		
	9	変形性関節症のADL	変形性関節症のADLについて学ぶ		
	10	下肢骨折のADL	下肢骨折のADLについて学ぶ		
	11	移動補助具の選択、操作について	移動補助具の選択、操作について学ぶ		
	12	身のまわり動作練習	起居・移動動作、身のまわり動作の意味と動作方法、訓練方法について学ぶ		
	13	複合動作練習のポイント	複合動作の練習方法について学ぶ		
	14	神経変性疾患のADL	神経変性疾患のADLについて学ぶ		
15	神経変性疾患のADL	神経変性疾患のADLについて学ぶ			

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	17	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	18	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	19	脳卒中片麻痺のADL	脳卒中片麻痺のADLについて学ぶ
	20	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ
	21	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ
	22	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ
	23	脊髄損傷のADL	脊髄損傷のADLについて学ぶ



授業科目 (科目ID)	運動器障害理学療法学  23p219		担当教員  (実務経験)	江戸 香苗  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必須	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	運動器疾患の理学療法について、各疾患の特有的症状・障害、解剖・運動・生理学の知識といった基礎知識を理解する。基礎知識を基に理学療法評価項目の選択、統合と解釈、問題点抽出・整理・優先順位の明確化ができるようになる。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>各疾患の特有的症状・障害、解剖・運動・生理学知識について記述、説明できる。</li> <li>基礎知識を基に評価項目を挙げ、根拠を説明できる。</li> <li>評価結果から考えられる事、その他の評価との関連、動作・生活との関連を説明・記述ができる。</li> <li>結果を基に問題点抽出・整理・優先順位の明確化ができる。</li> </ol>				
テキスト・参考図書等	Crosslink 理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 局所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版 リハビリに直結する！運動器画像の見かた 義肢装具学 第2版 標準整形外科学 第13版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学、生理学、運動学の復習をして授業に臨むこと</li> <li>身体の露出が必要な授業は、動きやすい服装で参加すること</li> <li>授業態度の不良な者は厳しい対応をする。</li> <li>医療人としての適正及び態度が不適な者、学習意欲のない者は授業への参加を認めない。</li> </ul>				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	運動器疾患理学療法の基礎	運動器疾患理学療法の基礎		
	2	骨折①	骨折の理学療法〔基礎知識～評価〕		
	3	骨折②	骨折の理学療法〔基礎知識～評価〕		
	4	末梢神経障害	末梢神経障害と理学療法〔基礎知識～評価〕		
	5	変形性関節症①	変形性関節症の理学療法〔基礎知識～評価〕		
	6	変形性関節症②	変形性関節症の理学療法〔基礎知識～評価〕		
	7	捻挫、靭帯損傷、脱臼①	捻挫、靭帯損傷、脱臼の理学療法〔基礎知識〕		
	8	捻挫、靭帯損傷、脱臼②	捻挫、靭帯損傷、脱臼の理学療法〔評価〕		
	9	腰部疾患	腰部疾患の理学療法〔基礎知識～評価〕		
	10	肩関節疾患	肩関節疾患の理学療法〔基礎知識～評価〕		
	11	切断①	切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法		
	12	切断②	切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法		
	13	切断③	切断・総論、切断のリハビリテーション、切断の理学療法		
	14	関節リウマチ①	関節リウマチ〔基礎知識から治療まで〕		
15	関節リウマチ②	関節リウマチ〔基礎知識から治療まで〕			



授業科目 (科目ID)	神経障害理学療法学  23p220		担当教員  (実務経験)	山内 真帆  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院に理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	脳血管障害や脊髄損傷等、理学療法的主要対象疾患についての知識の統合をはかる。各疾患における病態像、障害像の理解を深め、それに応じた理学療法評価項目の選択と目標設定、治療計画立案までの知識・技術の統合をはかることを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患の病態、評価について説明できる。</li> <li>・理学療法治療の流れについて説明できる。</li> </ul>					
テキスト・参考図書等	標準理学療法学専門分野 神経理学療法学 第3版 病気が見える Vol.7 脳・神経 第2版 標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 脳画像 脊髄損傷理学療法マニュアル第3版					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の留意事項	実践的な授業のため、分らない事などを次に持ち越さないでその場で解決する(理解する)積極性を求める。基礎疾患の知識や理学療法評価法などと重複する話が多いので、しっかり復習して望むこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法			
	2	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法			
	3	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法			
	4	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法			
	5	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法			
	6	脳血管障害	脳血管障害・総論、脳血管障害の合併症と予後判定、脳血管障害の理学療法評価、脳血管障害の理学療法			
	7	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法			
	8	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法			
	9	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法			
	10	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法			
	11	脊髄損傷	脊髄損傷についての総論、脊髄損傷の合併症・予後、脊髄損傷の理学療法評価、脊髄損傷の理学療法			
	12	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法			
	13	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法			
	14	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法			
15	神経難病	パーキンソン病の評価・理学療法、脊髄小脳変性症の評価・理学療法、筋萎縮性側索硬化症の評価・理学療法				



2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学校

理学療法学科

授業科目 (科目ID)	内部障害理学療法学 23p221		担当教員  (実務経験)	横野 裕行  道内・外の病院で理学療法士として8年勤務		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位	
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数 15時間	
授業目的	糖尿病・慢性腎臓病の基礎知識と合併症、運動療法やリスク管理、運動処方について学ぶ。					
到達目標	糖尿病・慢性腎臓病の運動療法とリスク管理について説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	病気が見える 糖尿病・代謝・内分泌 Vol 3 第5版 最新理学療法学講座 内部障害理学療法学					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験100点満点中60点以上を合格とし、本試験で60点に満たないものは再試験にて60点以上を合格とする。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	講義時間で説明した内容は、できる限りその時間のうちに覚え理解するように努めること。そのため、わからない所は質問し早めに解決すること。2年次履修の内 部障害学、1年次履修の解剖学・生理学がベースとなるため復習をすること。また普段使わない専門用語が多く出てくるので丸暗記ではなく意味を覚えること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション・代謝障害について	代謝の復習、代謝障害、肥満について学習する			
	2	糖尿病総論	糖尿病の病態・検査・治療方法について学習する			
	3	糖尿病の合併症	糖尿病の合併症やその評価方法、リスク管理について学習する			
	4	糖尿病の治療	糖尿病の食事療法・運動療法の方法について学習する			
	5	行動変容	糖尿病疾患に対して、ただ理学療法をするだけではなく、行動を継続させる手法を理解する			
	6	腎臓・腎不全 総論	腎臓について、慢性腎臓病の病態・検査・治療方法について学習する			
	7	腎不全の理学療法	慢性腎臓病の評価・理学療法の方法について学習する			
	8	症例検討・評価体験	糖尿病・慢性腎臓病の症例検討、6分間歩行テストの経験をする			



授業科目 (科目ID)	臨床実習 I  23p222	担当教員  (実務経験)	浜本 浩一  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内外の総合病院等で理学療法士として16年間勤務
対象年次・学期	2年・後期	担当教員	吉田 香織
授業形態	実習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の総合病院に理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	元木 純
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員	竹中 謙将
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
		担当教員	江戸 香苗
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内整形外科病院にて理学療法士として10年間勤務
		担当教員	武田 祐貴
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員	吉田 智子
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員	横野 裕行
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内外の病院にて理学療法士として8年間勤務
		担当教員	山内 真帆
		(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で理学療法士として8年勤務
		担当教員	
		(実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>